



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 中村 雅典
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000
ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp>



巻頭言

歯科病院長 馬場 一美

急速な高齢化に伴う疾病構造の変化に対応して、今後、ますます医療の軸足が急性期医療から回復期医療・予防医療へと変化していくと予測されています。こうした変化についてはすでに言い尽くされており、皆さん十分に理解されていると思います。もう一つの大きな社会変化として、産業構造の変化が挙げられます。



「第4次産業革命」という言葉を耳にしたことはないでしょうか？ 第4次産業革命とは、第1次産業革命（18世紀末以降の水力や蒸気機関による工場の機械化）、第2次産業革命（20世紀初頭の分業に基づく電力を用いた大量生産）、第3次産業革命（1970年代からの電子工学や情報技術を用いたオートメーション化）に続く産業革命として位置付けられており、IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの技術革新による大きな変革です。現在は、第3次産業革命による省人化・自動化を経て、第4次産業革命に入っていると言われます。実際に、最適プランニング、遠隔操作や自動運転といったキーワードを盛んに耳にします。

こうした変化は医療に対しても当然大きなインパクトを与えます。AIによる病理や画像診断技術は数年内に人間を凌駕すると見込まれ、AIによる診断行為や意思決定が加速度的に普及すると考えられています。外科手術においてもロボット技術が標準化され、超高精細映像の実現で誰もが「名医」の技を享受できるようになると予想されています。さらに、遠隔診断、オンライン診療が広がれば、受療困難者にも医療が届けられ、多職種連携や病診連携、地域医療連携を促進する手段にもなります。こうした動きを更に加速するためには、AIの基盤となるビッグデータを蓄積するしくみが必須であり、最も重要です。質の高いデータを継続的に取得し解析可能な形で保存すること、「インプットの質」を揃え、あらゆる情報を関連付ける仕組みを確立する必要があります。「garbage in, garbage out」です。

産業構造の変化という観点から歯科医療に目を転じてみると、医療技術は着実に進歩していますが、実際には第2次産業革命が終了し第3次産業革命が進められるかどうかという状況です。しかし、落胆する必要はありません。高品質のデジタル X 線撮影や CAD/CAM クラウンなど、デジタル技術をこれほど広く活用している医療分野は他に見当たりません。通常の診療の中で画像・形態デジタルデータが「質の高いインプット」としてカルテに紐付けされた形で自動的に蓄積されています。AIを活用する上で最も重要なビッグデータを構築する基盤がすでに整っているのです。今後、ゲノム・オミックス情報や生体センシングによるデータなどの情報も合わせて、個人の遺伝素因・環境要因患者の状態を踏まえた「Precision Medicine」型へとパラダイムシフトが進むと予測されますが、こうした基盤があることは大きな強みです。このアドバンテージを学部の叡智を結集して戦略的に活用したいものです。

大学院歯学研究科春季Ⅱ期入試・MDプログラム試験が行われました

歯学部大学院運営委員長 弘中 祥司

令和3年度大学院歯学研究科春季Ⅱ期入学試験および令和3年度MDプログラム(歯学研究科コース)選考試験が2月6日(土)に行われました。大学院歯学研究科春季Ⅱ期入学試験志願者は、一般選抜が23名で、社会人特別選抜は6名でした。大学院志願者は前年度が16名であったため、大幅に増加したと言えます。また、MDプログラムの方の志願者も4名と、前年度が3名であったため、増加しております。歯学部大学院運営委員長として、一緒に研究を行う優秀な人材が増えることは喜ばしいかぎりであり、合格発表は3月4日(木)16時からではありますが、今から4月の入学を楽しみにしております。

昨今の歯学部大学院生の修了要件の改定により、主論文のアクセプトが必須となっており、規約も改定されております。大学院生活は4年もあると思うでしょうが、意外にも早く経過するものです。指導教員と一緒に綿密な計画を立てて研究に邁進する事が求められます。国際的視野に立った素晴らしい研究を、昭和大学はこれからも発信し続けて行くでしょう。歯学部の大学院生ならびにMDプログラムの学生をALL昭和で支えて行きましょう。未来の研究者へエールをおくります。

検体数33,000オーバー： 学内 PCR センターの状況について

歯学研究科長 高見 正道

新型コロナウイルス(COVID-19)感染の拡大を受け、昨年5月に設置された「昭和大学新型コロナウイルス対応 PCR センター」(以下「PCR センター」)で解析した検体数は、入院予定の全患者、発熱外来の受診者、本学職員・学生の検査も加え、1月23日までに33,000件を超えました。

PCR センターの運営は、各学部の教育職員と事務職員などの有志により支えられており、スタッフはそれぞれ、①検体の取り扱いとPCR検査の実施、②患者データの入力とPCRの準備、③検体の運搬係にわかれ、安全が確保された状況下で効率よく検査を実施しています。

私の場合、平日は変則的な予定が多いため、毎週土曜日に参加しています。検体を96穴プレートに1つずつ入れたり、サーマルサイクラーのデータを患者と照合したりする作業は、絶対にミスが許されないのです。気を抜かずに作業しています。

現在、歯学部からも教育職員や大学院生が参加してくださっていますが、1日に午前と午後の最低2回実施されるPCRを円滑に進めるには十分とは言えません。2か月ごとにスタッフが募集されていますので、歯学部からもご参加をお願いいたします。お問合せは、歯学部の窓口をされている、桑田教授(口腔微生物学)までお願いいたします。



写真:PCR センターにて

選抜 I 期入試が実施されました

入学支援課 阿部 萌子

令和3年度歯学部一般選抜入試 I 期・大学入学共通テスト利用入試 A 方式が、2月4日(木)に東京、大阪、福岡の3試験場にて薬学部、保健医療学部と同日に実施されました。

今年度の志願者数は、一般選抜入試 I 期(44名募集)が351名、大学入学共通テスト利用入試 A 方式(10名募集)が一般選抜入試 I 期との併願を含む

175名、大学入学共通テスト利用入試 B 方式[地域別選抜](各地域1名、計6名募集)が15名、医学部一般選抜入試 I 期利用の歯学部併願入試(3名募集)が127名と、全国津々浦々から出願がありました。

試験当日は天候にも恵まれ、各試験場とも特に大きなトラブルもなく、各学部教職員の方々のご協力により無事終了することができ、2月8日(月)に一般選抜入試 I 期、2月10日(水)に医学部一般選抜入試 I 期利用の歯学部併願入試一次の合格者を発表いたしました。2月13日(土)・14日(日)には医学部一般選抜入試 I 期利用の歯学部併願入試の二次試験、2月28日(日)には大学入学共通テスト利用入試 B 方式[地域別選抜]二次試験が実施されます。

昨今、歯学部の志願者獲得が厳しい中、日々の入試広報活動および入学試験の運営・実施にご協力を賜りました教職員の皆さまには、心から厚く御礼を申し上げます。

歯科医師国家試験が実施されました

D6チューター会議 船津 敬弘

第114回歯科医師国家試験が1月30日、31日の2日間実施され、本学は巣鴨にある大正大学で、他の関東圏の大学と共に受験をいたしました。天候には2日間とも恵まれましたが新型コロナウイルスの感染拡大を受け、各大学とも感染防止対策として例年のような応援の姿はありませんでした。今年は入室前に体調のチェックと共に体温測定があったため、開場が例年より早く、受験生もそれに合わせて早めに入場するものが多かったように思います。

本年度は92名の卒業生を国家試験の場へと向かわせました。例年と異なる状況下での1年間を過ごしてきた6年生は、非常に努力したと感じています。本人達の頑張りも相当なものですが多くの教員や、関係者の方々も、様々大変な1年の中、教育にご尽力いただいたことに深謝いたします。3月16日(火)午後2時に発表される結果が素晴らしいものであるよう期待を持って待ちたいと考えております。

行事予定

広報委員長 中村 雅典

3月 7日(日):一般選抜入試(Ⅱ期)
3月16日(火):卒業式・学位記伝達式
3月23日(火):大学院春季修了式

編集後記

口腔病理学部門 田中 準一

2月は例年とは異なる環境下で、入学試験など多くの試験が実施されました。感染予防対策の徹底を求められる中、試験の運営・実施に御尽力いただいた職員の方々には深謝いたします。末筆では御座いませぬが、原稿を御執筆してくださいました先生方にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。